

平成28年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策)
1 国際社会を生きる人材の育成を主眼として、個々の生徒に応じた進路実現を目指し、全国の国立大学にチャレンジしていく生徒を増やす。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	授業において、一方的な講義形式による知識注入でなく、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を図る活動を行っている。 (ア) 毎時行っている (イ) ほぼ行っている(7割以上) (ウ) + (イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 93%	(成果と課題) アクティブ・ラーニング(AL)の手法を取り入れた授業が浸透してきており、ICT機器の活用も充実してきた。ALの手法と知識注入型の手法を効果的に授業に組み入れていくことが求められる。 (次年度の扱い) ICT機器の効果的な使用場面の設定、ALの評価場面の研究等を推進し、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を図る。
	② 授業や総合的な学習の時間等の活動を通して、生徒が自ら課題解決に取り組む姿勢を育む。	自らの学習について (ア) 授業や学校で与えられる課題以外に、独自の学習に取り組んでいる。 (イ) 授業や学校で与えられる課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ) 授業や課題には取り組んでいるが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ) どちらかというとその場しのぎの学習ばかりで、極端に悪い成績を取らない程度の学習状況である。 (オ) + (イ)の合計が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	B 42%	(成果と課題) 各教科が与える学習課題の分量を学年主任が調整することにより、生徒へ過重な負担がかからないよう配慮している。 また、本年度新たに1年生を対象として、大学卒業後を見据えた地元企業説明会を実施し、生きる力や社会人基礎力の重要性を確認させるとともに、働くことの魅力を伝えることで学習への意欲を高めることにつながった。 (次年度の扱い) 地元企業説明会を2年生にも拡大して実施し、キャリア教育の観点から学習意欲の更なる向上を図っていく。
	③ 国際共通語である英語でコミュニケーション能力を身に付けようとする態度と能力を育成する。	2年次12月に受検するGTECの本校の平均スコアが、前年1年次12月に受検した同平均スコアに比べ、何点の伸びがあったか。 A 50点以上 B 45点以上 C 40点以上 D 40点未満	A +63点	(成果と課題) 授業のなかで教師が積極的に英語を用いて指示したり、活動を促したりした結果、リスニングの力が大きく伸びてきた。また、単語の小テストを継続的に実施することで、リーディングの力もついてきている。 (次年度の扱い) 引き続き、授業のなかで積極的に英語を使用する場面を設定していく。
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	ア 難関大学合格者数 10名以上 イ 金沢大学合格者数 60名以上 ウ 国立大学合格者数 180名以上 合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず	B 難関大： 18名 金沢大： 52名 国立大： 192名	(成果と課題) 東京大、京都大を始め難関大学合格者が2年連続で10名を超えた。NSH卒業生が3期目となり、人文・自然両コースにおけるきめ細かい指導が充実してきた。 (次年度の扱い) より高度な授業内容を展開することで、質の高い学びを提供する難関大学で切磋琢磨していきたいと希望する生徒を増やしていく。
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、顧問を第2の担任と位置づけ、部活動指導の一貫として学習指導にも積極的に関わる。	第2の担任という立場で、部活動指導の一貫として生徒自らが学習に向かう姿勢と環境を整えているか。 (ア) 十分整えている (イ) ほぼ整えている (ウ) あまり整えていない (エ) 整えていない (オ) + (イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	A 94%	(成果と課題) 定期試験期間中や長期休業中に部活動単位で学習会を実施したり、各教科からの課題の提出状況を顧問が把握したりするなど、部顧問が積極的に生徒の学習支援に関わっている。 (次年度の扱い) 部活動の時間が長いという保護者からの意見もあり、完全下校時間の遵守と効果的な練習メニュー等により、生徒の家庭学習時間の増加を図る。
学校関係者評価委員会の評価	・アクティブラーニング(AL)の導入は教員への負担感が大きいと思われる。ICT等を用いなくても思考力や判断力、課題発見力、課題解決力などの育成を目指す、本校独自のALを展開してほしい。 ・英語の学びにはロジカルな面が大きく影響している。英語の学びを先行させることで、他教科への学力強化、思考力や判断力等を育成できるのではないかと。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・アクティブラーニングありきではなく、生徒の現状をしっかりと把握、分析しながら、どのような力を生徒に付けさせるのか、目標を共有し、共通理解を図る。 ・英語力向上のため、外部試験の積極的な利用やALTとのコミュニケーション活動等、英語を使わざるを得ないような状況や環境を整え、学んだ英語を活用していく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
2 校訓「質実剛健」を不易のものとして、生徒の規範意識と自主自律心の向上を図り、高い意志を持ってたくましく生きる生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんとした頭髪・服装をしている ・積極的に挨拶をしている この2つの点について (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	(A) 全体：90% 教員：91% 生徒：90% 保護者：89%	(成果と課題) 服装・挨拶等についてはおおむね高い評価を得ている。しかしながらまだ十分とは言えない生徒も一部見受けられる。 (次年度の扱い) 朝の挨拶運動やボランティア清掃活動を通して、生徒の自発的な活動を推進していく。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール指導を行う。	自転車に乗車するときは交通ルールを (ア) いつも守っている (イ) だいたい守っている (ウ) あまり守っていない (エ) ほとんど守っていない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	(D) 全体：69% 教員：50% 生徒：88%	(成果と課題) 東金沢駅から本校までの通学路で実施してきた登校指導の結果、生徒の自転車乗車マナーは向上している。しかし、校地内の急坂を自転車乗車のまま下りる生徒も一部に見受けられ、大きな事故につながることもある。 (次年度の扱い) LHや集会時に自転車マナー及び事故防止について粘り強く啓発していく。また、PTAと連携し、自転車保険に学校一括で加入することで無保険者をゼロにしていく。
	③ 部活動の活性化を通して、競技力や技能の向上に努めるとともに、生徒の自主性や自立心の育成を図る。	①各部活動が設定した本年度の目標を達成することができたか。 (ア) 達成することができた (イ) だいたい達成することができた (ウ) あまり達成することができなかった (エ) 達成することができなかった (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ②北信越等のブロック大会以上に進出した部が A 20以上 B 15以上 C 10以上 D 10未満	① (D) 68% ② (C) 11部	(成果と課題) 剣道部、陸上競技部のインターハイ出場を始め、7の運動部と4の文化部がブロック大会以上に進出している。石川県高校総体の成績は総合で第5位と躍進した。 (次年度の扱い) 各部活動が現状より一つ上の目標を定めて、効率的な部活動を展開していく。
	④ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	年間貸出冊数が A 1500冊以上 B 1200冊以上 C 1000冊以上 D 1000冊未満	(B) 1232冊	(成果と課題) 今年度より本格的に開架し、ビブリオバトルやPOP講習会等各種の行事を展開している。 (次年度の扱い) 集団読書会や図書館セミナー等の取組を通して、さらに生徒の読書意欲を高めていく。
	⑤ 生徒面談シートを活用し、PDCAサイクルを意識させた面談を行い、生徒が主体的に目標の達成に取り組む自律の態度を育成する。	①家庭学習時間が学年の目標値(学年+1)に達している生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 ②家庭でのスマホ使用制限を (ア) いつも守っている (イ) だいたい守っている (ウ) あまり守っていない (エ) ほとんど守っていない (ア)+(イ)の合計が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	① (B) 50% ② (C) 42%	(成果と課題) 1年生については、16%の生徒がスマートフォンの利用時間が2時間を超過しており、家庭学習時間の確保に影響を与えている。 2年生についても、スマートフォンの家庭での使用制限を守る生徒は100名ほどである。 (次年度の扱い) 保護者の協力を得ながら、スマートフォン使用についての取組を継続していく。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の効用には集中力の高まりや粘り強さの醸成が期待できる。本校ならではの真の文武両道を推進してほしい。 ・安心安全な学校環境を整えることは保護者の願いであり、PTAと連携しながら自転車事故防止や自転車運転マナーの向上に努めてほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動では、明確な目標設定と効率的な練習の実施を図りながら、学習との両立を目指し、本校伝統の文武両道を進めていく。 ・校地内の坂道に自転車通行を制限するような柵を設置し、登校時だけでなく下校時にも乗車マナーの指導を導入していく。さらにPTAと連携して自転車保険に学校一括で加入することで無保険者をゼロにしていく。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
3 教育目標達成のため、教職員自らが資質向上に励むとともに、学校の教育活動に参加する保護者の増加を図り、信頼される学校づくりに努める。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校経営がなされている。	いしかわニュースーパーハイスクールとして教職員の共通理解のもと、学校運営がなされていると感じる教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	Ⓑ 89%	（成果と課題）会議の効率化や分掌業務の見直しに努め、各教員の生徒と向き合う時間が充実してきた。 （次年度の扱い）NSH推進課・進路指導課・教務課・各学年がさらに連携を密にし、生徒の進路実現に資する取組を展開していく。
	② 校内研修会をより充実させ、今日的な教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高める。	取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができたと感じる教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	Ⓐ 91%	（成果と課題）昨年に続き、産能大の小林先生を招いてアクティブ・ラーニングの進め方について理解を深めた。また、特別支援教育の留意点や休みがちな生徒への対応等についても研修を実施した。 （次年度の扱い）引き続きALの研修の機会を確保するとともに、今日的な教育課題に対応していく研修を進めていく。
	③ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことにより、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭と学校との連携を更に深める。	今年度、保護者が本校の学校関係の行事に参加した回数が (ア) 5回以上 (イ) 2～4回 (ウ) 1回 (エ) 0回 (ア)+(イ)の合計が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	Ⓐ 86%	（成果と課題）桜高祭では、新校舎の中庭にステージを設置し、内容の充実を図った。天候にも恵まれ、例年より多くの保護者の来校があった。 （次年度の扱い）桜高祭を土曜日に開催し、保護者や地域に開かれた行事とする。3S歩行の協力者は今年度も500名を超えており、保護者の教育活動への積極的な参加が定着しつつある。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等への保護者の参加率が80%以上なのは、桜丘の特筆すべき長所である。学校行事の更なる質的向上を期待する。 入試倍率が高く人気ナンバーワンの学校である。機能的な新校舎も魅力だが、桜丘の最大の良さは素直で真面目な生徒たちである。現状に満足することなく、創立百周年に向けて新たな仕掛けが望まれる。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 桜高祭の開催日を従来の平日から一部休日開催とする。保護者や地域に開かれた行事とすることで、生徒の意欲向上や内容の質的レベルアップにつなげていき、生徒の達成感、自尊感情の高まりを図っていく。 3年後の創立百周年を見据えて、本校制服のデザインを一新するとともに、新たな伝統をつくりあげるべく、生徒の帰属意識や連帯感の醸成を図る。 			